**作間　雄二 （さくま・ゆうじ）**

**１、プロフィール**

作間は東京新橋に生まれ、昭和30年劇団文化座へ入団し舞台を踏んだ。34年演出家を志し退団、弘前に移住した。その後、戯曲、脚色、演出、創作など文化活動一筋に生きた。

＜生没＞

1929（昭和４）年12月８日 ～ 1975（昭和50）年８月23日

＜代表作＞

『西津軽郡車力村』『作間雄二戯曲集』

＜青森との関わり＞

演劇で活躍のさ中、弘前市に昭和34年に移住、以後は亡くなるまで津軽を題材として創作活動に没頭した。

**２、作家解説**

昭和４年12月８日､作間雄二は東京芝新橋に父亮､母津多子の次男として生まれた。兄一雄がいる。桜川小学校から正則中学校に入学したが、太平洋戦争中、千葉県市川市に疎開し少年時代を過ごした。この頃友人と劇団をつくり、演劇に興味をもつ。

22年千葉県市川学院卒業と同時に、明治学院専門学校社会学科に入学。その後中退し、市川市八幡小学校の代用教員となった。30年25歳の時、劇団文化座へ入り、５月初舞台を踏んだ。演出家佐佐木隆に師事する。34年演技部より演出部に移籍し、演出家を志した。同年５月「炎の人」巡演のために東北各地をまわり、多くの演劇活動家に出会う。10月三好十郎作「冒した者」の舞台監督を最後に文化座を退団し、12月妻の郷里弘前市に移住した。彼は「弘前文学」の同人となり、小説「謀叛人始末」等の作品を発表した。

38年３月20日弘前演劇研究会（後に劇団弘演）を設立し、その後は､戯曲､演出など演劇活動を精力的にすすめた。39年戯曲「津軽ばか塗り」が「文化評論」新人賞を受賞した。40年「浅草象潟あたり」が「オール読物」戯曲の部佳作に入選した。42年「津軽謀叛人始末」が日本共産党創立45周年記念文芸作品戯曲部門で佳作に入選した。この頃松田解子原作を「おりん口伝」「続おりん口伝」に脚色した。46年戯曲「西津軽郡車力村」を脱稿する。この頃より、過労のため入退院を繰り返している。

50年吐血し衰弱した身体で戯曲「八戸無産者診療所」を脱稿した。

同年８月23日肝硬変のため弘前市の健生病院で亡くなった。45歳。10月23日、「八戸無産者診療所」を劇団弘演が追悼公演した。

**３、資料紹介**

〇『作間雄二戯曲集』

図書

1978（昭和53）年８月１日

190mm×143mm

「作間雄二戯曲集」刊行委員会の手により刊行される。創作「津軽ばか塗り」「浅草象潟あたり」「津軽謀叛人始末」「喪の季節」「西津軽郡車力村」「雪夜」「八戸無産者診療所」と、脚色「おりん口伝」「続おりん口伝」「秘密」を収める。